



より高度な臨床  
より深い研究  
より広い教育  
より積極的な保健活動

# 地域医療連携室だより

Community Healthy Network News



## JA秋田厚生連・平鹿総合病院

### もくじ

- 総長ご挨拶……………②
- 院長ご挨拶……………②
- 室長新任のご挨拶……………③
- 副室長新任のご挨拶……………③
- 当院での取組み……………④
- オープンベッド御利用医院の紹介…④
- 紹介患者様受付場所……………④

病院住所／〒013-0042 横手市前郷字ハツ口3番1  
TEL／0182-32-5121 (代) FAX／0182-33-3200  
[地域医療連携室連絡先]  
● 地域医療連携室  
TEL／FAX 0182-32-0698  
● HP : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

## 求められる地域医療をめざして



平鹿総合病院  
総長

林 雅人

横手では暑い夏も益が過ぎると急に秋になり涼しい日が続いています  
が、医療の世界は暑い（逆に寒いと感じる？）日が続いている感じです。

さて、平鹿総合病院の地域医療連携室も新スタッフの頑張りのもあり、  
患者さんを送ってくださる医療機関（診療所、病院を含めて）への協力  
に少しずつ答えられる体制になりつつあります。

例えばオープンベッドの稼働率は、開設当時10－40%だったのが最  
近は80－90%にまで達しています。オープンベッドの利用は、患者さ  
んを通して病院スタッフとの接点になってもらえればと期待しています。

本年3月に在宅療養は、支援診療所を全国規模で結ぶ全国在宅療養支  
援診療所・連絡会が発足したと聞いています。自宅で看取られるのが一  
番よいと考える患者さんが少しずつ増えております。それをサポートす  
る家族、医療スタッフの必要性も増しており、病院と診療所の連携はそ  
ういう面でも大切だと考えます。

一方病院としては、紹介・逆紹介についても更にやり易いようにして、  
スムーズに地域の先生達とふれ合える努力をしていきますので今後とも  
宜しくお願いします。

## 4 疾病 5 事業



平鹿総合病院  
院長

平山 克

厚生労働省の平成19年4月の第5次医療法改定において重点的な課  
題として扱われているのが「4疾病5事業」です。それらが、がん・脳  
卒中・急性心筋梗塞・糖尿病（4疾病）であり、救急医療・災害時医療・  
へき地医療・周産期医療・小児医療（小児救急を含む）（5事業）であ  
ることは今更言うまでもありませんが、横手医療圏域においても、本年  
4月策定の秋田県医療保健福祉計画に基づいてこれらの課題に地域を挙  
げて取り組まなければなりません。そのキーワードは「地域における切  
れ目のない（シームレス）医療の提供の実現」であり、その為には、圏  
域における疾病または事業ごとに必要となる医療機能の明確化、各医療  
機関が担うべき役割の明確化、医療連携の推進がポイントとなります。

一方、見方を変えると、国の考え方は、4疾病においては「すべての  
医療機関が何らかの機能を持つこと」が求められますし、5事業におい  
ては「センター施設とサテライト施設の区分を明確にして医療資源の集  
中を図る」という方針です。

現時点において平鹿総合病院が担っている医療機能を鑑みると、上記  
の新しい医療計画において地域医療における当院の責任と役割はさらに  
重大になることを深く心に刻んで、更なる努力と研鑽を重ねる必要があ  
ることを改めて深く自覚するものであります。

## 室長新任のご挨拶



地域医療連携室  
室長

高橋 俊明

この8月から、荻原先生の後を引き継ぎ、地域医療連携室を預かることになりました。よろしくお願いいたします。

私は1985年から平鹿病院で初期研修を行い、その後町立大森病院、公立角館病院を経て、1994年から平鹿病院に復帰し、循環器中心の内科診療に取り組んで十年余が経過しました。大森病院時代に、旧平鹿郡医師会のみなさんと勉強会や懇親会で一緒に過ごしたことが懐かしく思い出されます。

今でこそご紹介いただいた患者さんを何とか診断して、いくらか良くしてお返しできたり、研修医に指導らしきものをする立場にありますが、まったく逆の立場にいたこともあります。「いったい患者に何が起こっているかわからなくて途方にくれる、幸いにも自分で思いつく、そうでなければ誰かに教えてもらう。わからないままでも患者はよくなっていくのであれば良いが、そうとばかりは限らない……。」内心では絶えず不安に駆ら

れながら、回診をしては情報提供用紙を書いているのが我々の日常です。

今年度から連携室には高山国子師長が専属となり、一貫したヴィジョンのもとで運営に当たってくれています。たいへん心強い存在です。つい先日、澤口先生の紹介患者さんをいち早くオープンベッドにセッティングしてくれたのも彼女でした。毎週澤口先生と一緒に回診し、病態や方針を議論できたことは、実に貴重な時間でした。

コンピューターによるネットワークの構築や情報共有システムももちろん重要です。しかし、それは地域連携のなかにあって、情報伝達という面における一つのツールではあっても、本質ではありません。ご紹介いただいた患者さんを正しく診断し、適切に治療し、明確な方針を示すことこそ、地域連携の中心にあるべき作業であると実感しました。

今後、地域連携が円滑に進むように努力して参ります。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 副室長新任のご挨拶



地域医療連携室  
副室長

齋藤 研

今年度から副室長を命ぜられました外科医師です。当院は、勤続11年目になります。外科から、地域医療連携に関係する部分を述べて挨拶いたします。

外科は周知のように手術が最重要業務であり、外来等は、二次的になります。但し、最近、癌の手術の割合が年々圧倒的に多くなっているため、外来癌化学療法が急激に増加してきました。当院でも昨年4月の新築移転時から、外来化学療法専用室を設け、専属スタッフを配置しています。癌治療は手術前後の抗癌剤（ホルモン剤）使用も大切であり、なおかつ、その方法として外来通院が最近の主流です。ひと昔前と違い、より副作用のないやり方で、中断することなく続けることが大事なわけです。「低用量、持続的」という考え方です。その後、癌の再発・転移を認めなくなった患者さんは、お近くの先生に診てもらうことになります。このやり方でいか

ないと、総合病院の外科は、パンクしてしまいます。一例を挙げると、外科のある先生は、術後長年に亘り胃腸薬や降圧剤処方のみで通院していた多くの患者さんを、承諾を得た上で近医に紹介しました。それでも時々、風邪をひいた時に外科を受診される患者さんがいます。これからはますます、医療の役割分担が必須になると思います。最後に、この4月から齋藤礼次郎先生が赴任したことをお知らせします。先生は、主に食道・肺・縦隔の胸部外科が専門で、胸腔鏡下の手術を得意としています。関連する患者さんがおられましたら、ぜひ当科へご紹介ください。

## 当院では、以下のことに取組んでおります。

患者様のニーズに合った医療や看護を提供させて頂いております。

### 特徴のある医療体制

- 災害拠点病院として機能しております。
- エイズ拠点病院として機能しております。
- 地域周産期センターとして機能しております。
- 救急センターとして機能しております。
- 横手市医師会の先生方のご協力により、日曜夜間小児救急医療体制をとっております。
- セカンドオピニオン外来を開設しております。
- 開放病床（共同利用ベッド）を6床運用しております。
- 秋田診療情報共有システムのモデル事業施設に指定されています。
- 病院OB、市民有志の方々より、ボランティア活動にご協力いただいております。



## オープンベッド御利用医院の紹介

(平成20年9月30日現在)

横手市  
朝日ヶ丘レディースクリニック  
樋口 譲治

横手市十文字町  
井田内科胃腸科医院  
井田 隆夫

横手市  
熊谷医院  
熊谷 理夫

横手市  
細谷内科医院  
細谷 賢一

横手市  
すずき皮膚科クリニック  
鈴木 長男

横手市平鹿町  
醍醐クリニック  
無江 昭子

横手市十文字町  
高橋医院  
高橋 和彦

横手市  
高橋内科医院  
高橋 晶

横手市  
ツインクリニック内科・整形外科  
齊藤 公基

横手市  
ツインクリニック内科・整形外科  
妹尾 和己

横手市  
橋本内科医院  
橋本 秀

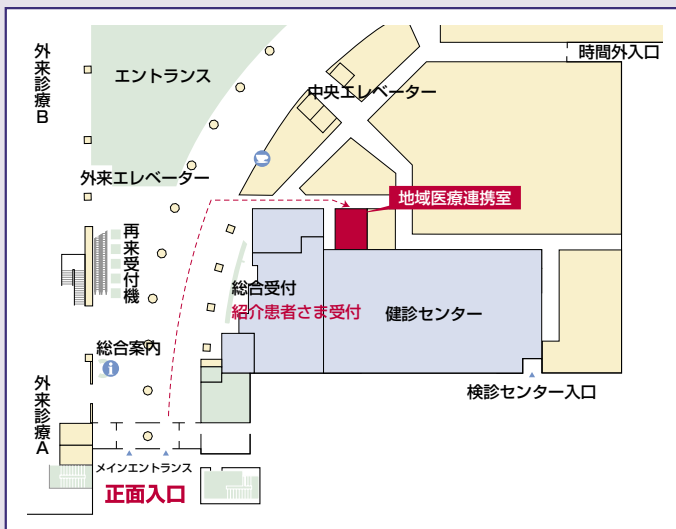
横手市  
福嶋内科医院  
福嶋 隆三

横手市  
横手胃腸科クリニック  
小山 幸夫

横手市  
和賀胃腸科内科医院  
和賀 卓

横手市大雄  
渡邊医院  
渡邊 毅

横手市  
渡辺内科循環器科医院  
渡辺 一



### 紹介患者さま受付と地域医療連携室設置場所

#### スタッフ

室長 高橋 俊明  
副室長 齋藤 研  
医事課長 久米川 均  
看護師長 高山 国子  
事務 大澤 優子

スタッフ一同心を込めて対応いたしております。  
どうぞよろしくお願いいたします。